

コミュニティ ふた

私と人とまちの間に

2016.SEP

110号

9

編集発行

公益財団法人 草津市コミュニティ事業団

もくじ CONTENTS

FEATURE

その笑顔、まちの未来。

- 2 自分たちで考え、決める。
～学童保育・企業組合労協センター「みんなの家」～
- 3 スポーツから伝えたいこと ～草津市スポーツ少年団～
- 5 在住外国人の子どもたちの“今”
- 6 さあ、次なにをする？ ～草津市BBS会～
- 7 ご近所まんが
くさつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～
- 8 みんなとめん・めん 「つどいの場は絆の場」
- 9 より道こ道 「志那街道」
- 10 そのまちに…ICT／事業団からのお知らせ
- 11 草津Q／Next きみたちの草津／ボイス
- 12 熊谷栄三郎の徒然草津 第22回 「たり苦しい」その3
読者の声

まだ遊び足りない!

なごみの郷夏まつりで中庭の子どもプールで足をつけて遊ぶ女の子。なんとも楽しげで涼しげで。「少し冷えてきたかな、そろそろ出ようね。」「まだ、遊びたい!」とプールを見つめる女の子と抱きかかえたパパの一瞬。横で見守るママと3人。暑かった夏の日の思い出。

月がひときわ美しく見える季節。今年の中秋の名月は九月十五日です。団子や入スキを飾って月を愛でてみるのも一興です。里芋の収穫時期にも重なる「芋名月」ともいうそうです。ちなみに次にめぐる十三夜は「栗名月」「豆名月」とも呼ばれます。芋に栗・豆。昔から月と私たちの暮らしが身近だったことが伺えますね。さあ秋です。



FEATURE

自分たちで考え、決める。

学童保育・企業組合労協センター「みんなの家」

新学期。子どもたちにもそろそろ生活のリズムが戻ってきたようです。授業、休み時間、給食、友だちや先生との時間、登下校：長い人生の中で、学校で過ごす時間はどれも貴重なもの。大切にしてほしいものです。さて、子どもたちは学校や家以外ではどのような時間を過ごしているのでしょうか。そこではどんな人たちと出会い、どんな表情を見せるのか。子どもたちの放課後を探しに行ってみましょう。まずは学童保育からどうぞ。

予定はあくまで予定

ここは笠縫小学校すぐ近くの草津市民設児童育成クラブ「みんなの家」にここに子」。夏休みとあってか、20数名の子どもたちがにぎやかにおやつ時間、冷房も効かないほどの熱気です。

チャイムもない、時間も区切られていないわけでもないのに、小さな子が食べ終えるころに、誰かもなく食器や机を洗い、当番という6年生の女の子の進行で帰りの会が始まりました。すると3、4名の子が順番に発言していきます。「●ちゃんがこんな話で急に笑い出したけど、私はそんなに笑うほど面白いかなあ〜って思いました。」――？。

よく状況が呑み込めない。これは支援員さんに聞くしかありません。なんとも子ども好きな雰囲気、困気を漂わせている小川猛さん。「これは、今日の一言です。自分の気持ちを伝えるための時間で、今日、皆に聞いてほしいことがある子が発表します。ここでは子どもたちの自主性を大切にしてい

ます。予定は立てますが、その通りでなくても構わない。ごちそうさまをするタイミングも、その日の当番が様子を見て決められますよ」なるほど、合点がつきました。

自分で考え、決める

この学童保育を運営する企業組合労協センター「みんなの家」所長、田中紀代子さんがこの自主性について教えてくれました。

「働く親、働きたい親が増えていきます。働くために子どもを預けたい。学童保育は安心して子どもを預けられる場所、放課後の子どもたちの居場所として欠かせません。ただ、子どもたちからすると来てたくて来る場所ではないでしょ。自分の意思で、つまり「来たい場所」として子どもたちに前向きに受け入れてもらうためには、自分たちで考え決定する自主性を大切にしてあげたい。そのために「子ども会議」と称して、どんなことでも自分た

ちで意見を出し合い決定するようになっています。今、子どもたちは夏まつりをどうするか考えています。支援員も子どもたちが考え決めたことをできるだけ実

現させ、「学び」となるサポートを心がけています。学校はカリキュラムに沿って教えなければなりません、学童保育はそうではありません。先生でもないの



第2ももスマイル
福山かおりさん



「みんなの家」所長
田中紀代子さん



ここに子支援員
小川猛さん

◀写真：大條紘史（編集ボランティア）



スポーツから伝えたいこと

草津市スポーツ少年団

前島昭憲さん 草津市スポーツ少年団本部長

山田小学校のグラウンド。耳をつんざくような蝉しぐれが、かえって子どもたちのいない夏休みの静けさを強調しています。日差しに痛さすら感じる暑さの中、ユニフォーム姿でボールを追いかける少年野球の子どもたち全員で「こんにちほ」と帽子をとって挨拶してくれました。

野球の奥にあるもの

山田少年野球の顧問の前島昭憲さんは草津市スポーツ少年団本部長でもあります。現在、市内のスポーツ少年団は8競技

37団体、市内の小学生の10人に人*がスポーツでスポーツに打ち込んでいます。そのうち14団体と最も多い競技が野球です。

さて、前島さんがわが子の入団

を機に野球を教え始めたのはなんと40年前。そのころのチーム数は20チームあったとか。ちなみに40年前(昭和51年)のプロ野球界では王選手が本塁打王に、阪急の山田投手が最優秀ピッチャーに、

子どもたちの評価もしない。その子の良いところを認めながら伸ばしていくこと、子どもがちよっとした悩みを何気なく言える場所にしていきたいですね。」

先生でも親でもない大人や異年齢の子たちと、時間・空間を共にして、みんなで考えながら実行する。学童保育は単に「子どもを預ける場所」や「もう一つの学校」ではなく、子どもたち自らが自分自身や心を育てていくための居場所なんです。子どもたちの成長が楽しみです。

そこに必要な仕事をおこす

「みんなの家にこに子」を運営する企業組合労協センターは他にも公設学童保育の指定管理(4か所)、高齢者や障がい者の訪問介護、デイサービスなど介護・子育て・障がい者支援など様々な事業をしています。ポイントは「そこ(地域)に必要なものを仕事としておこす」こと。5年前に障がい児の放課後デイサービス事業が始まった例を福山かおりさんにお聞きます。



一人の発達障がい児との出会いが始まりです。その子は同じように学童保育に来ていましたが、大勢の中では耳をふさいだり、グルグル回ってみたりと、少し他の子とは違う仕草や行動が目立ちました。それは自分を落ち着かせるための行動。私にはその子がこの場所では辛そうに映りました。この子が楽しく過ごせる場所が必要なのでは…。その子のお母さんに話す全く同じ思いを持たれていたんです。でも、働くお母さんには他に選択肢がなかったんですね。そうして、同じような悩みを持つお母さんたちの話を聞きながら調査、確かなニーズを確認して、労協センターの出資金を元手に始めたのが「みんなの家 児童デイサービスもも」です。今ではここも一杯になり、寄付や賛助金も集めて「第2もも スマイル」も立ち上げました。

そこに必要な仕事を創造する。そこにニーズがあれば、働く人も出資して組合員となり、解消に向けた仕事として興じます。単に雇う・雇われるといった関係でなく、お金も口も出さず仕組み。皆が同じ一票と発言権を持ち事業を運営していきます。いわゆる「労働力」の協同組合なんです。もちろん、皆の出資だけで業として成立しないものは制度補助なんかも取り入れるし、赤字部分は別の収益事業から補てんもします。大切なのは業として成立させるための確かなニーズ、出資・寄付・補助金などを集めるためのノウハウとコーディネート。もちろん、その根底には「思い」が大切です。

— お金儲けではないけれど、業を興して問題を解決していくこの手法も、コミュニティビジネスとして、またまちづくりの一つとして注目です。—





阪神では田淵や掛布が活躍した年。子どもたちの野球熱も高かったのかもしれないね。

さて前島さんの目に最近の子どもたちはどのように映るのでしょうか。

「時代もありますが、私たちの子どものころはボールもバットも今のように道具が十分じゃなかったんです。野球がしたくても家庭の事情でできない子どももいました。藪に入ってしまったボールを見つかるまで探すなんて当た

り前だった。

今の子もまたは道具があつて当たり前つてところがあるんですよ。野球を教える前に、道具を大切にしよう、野球をさせてもらえる環境や親御さんに感謝しよう、って気持ちを伝えていきます。だから『おはようございます』『ありがとうございます』と挨拶や礼儀を当たり前にできないといけない。それって野球の上達以上に大切なことです。」

変わったこと 変わらなかったこと

話は続きます。「兄弟のいる子が減つたのかなあ。ケンカに加減や下級生への接し方がわからない子が増えました。ずっと前だけど、デッドボールを受けてヘルメットをピッチャーに投げつけた子がいてね。その場でぎつくと叱つたことがあります。そしたらグラウンドから飛び出していつちやつて、叱つた私の方がビックリ。後で聞くと、その子は親御さんにも先生にも叱られたことがなかったそうです。叱られることに慣れていなかったんですね。昔は近所に叱ってくれる大人もたくさんいたから。」

でも今も昔も変わら

ないことがあります。それはみんな野球が好きってこと。学校では手におえないと聞く子だつて、スポ少ではまったくそんなことは感じられない。きつと野球が楽しくてしかたないんですね。」

40年。続けてきた理由

それにしても40年はすごい。スポ少の指導者つて土日もほぼ潰して、ボランティアで地域の子どもたちを見つめ続ける姿に本当に頭が下がる思いです。家族の理解も必要でしょう。地域のため、子どもたちのために続けてきた理由を聞いてみました。

「まずは野球が好きってこと。それと子どもたちの成長する姿から私自身が力をもらい、助けてもらっているんです。出身の子どもが高校野球で甲子園にでるんだと伝えにきてくれて、応援にかけつけたこともあります。あの子どもたちが野球を続け、活躍してくれていると嬉しいものです。実はね、今指導してくれている監督も私が一番厳しかったころの教え子なんですよ。」

前島さんの夢にゲームセットはありません。「小学生の間は心と体をつくること、そして基礎を身につけることがその後の子ども

もたちの成長にとつて大切だと思つています。いつか野球を辞めることがあつても、どんなスポーツでも楽しめる大人になつてほしい。あとスポ少つて、実はスポーツを通じて地域づくりに貢献していくことも大切な目的なんです。だからチームとしても、もつともつと地域に溶け込んでいかないといけないし、地域の方にもどんどん関わってもらいたい。親御さんでも地域の皆さんでもできることがあれば関わってもらいたい。陸上経験があつたなら走り方を教えてやつてほしい。そうして、子どもたちがスポーツを通じて地域とかかわり、チームも地域の誇りとなつていく。そんなスポ少に向かつていけたら良いですね。」



前島昭憲さん

◀写真：大條弘史（編集ボランティア）



（取材協力：公益社団法人草津市体育協会）

* 平成27年度の市内の小学生7,715人（草津市統計書）に対し749人（滋賀県スポーツ少年団要覧）。9.7%の児童が加入。

在住外国人の子どものための「ク」

松井高さん

学校の教室には色々な子がいます。目立ちたがりやな子、おとなしい子、ヤンチャな子、障がいをもつ子、それに在住外国人の子……。色々な理由で遠く異国からやってきた在住外国人の皆さんとその子どもたちのくを、在住外国人支援活動をする松井高さんに聞きます。

草津市をはじめ、栗東や

守山で在住外国人のための

「くらしの行政相談所」相談員として、多くの在住外国人に寄り添う松井さん。

大津市では南米から来た在住外国人向けに母語（ポルトガル語）を通じて、日本語指導も行っています。「市内の在住外国人の構成がここ数年、変わってきている」と松井さんは言います。

変わってきた構成

「滋賀県ではブラジルやペルーなどの南米の人が多かったんですが、ここ数年、フィリピン・インドネシア・ベトナムといったアジア諸国から来る人が多くなっているように感じます。滋賀県が公表している外国人登録者数の統計でも、例えばフィリピン国籍の方たちは5年前と比べて2割以上も増加しています。」

工場など非専門的分野での外国人就労はこれまで日系人しか認められていませんでしたが、その後「技能実習制度」*という制度が新設され、近年この制度を活用し非日系人を雇用する事業所が増えたためだと思えます。

なるほど、まちの中でアジアの人たちをよく見かけられるようになった理由がわかりました。

親とのコミュニケーション

在住外国人の構成だけでなく、

依然、市内に多くいるブラジルやペルーから来た南米の在住外国人の環境も変わりつつあります。

「両親の来日に伴い、南米から来た子どもの数はグッと減り、日本で生まれ育つた子が多くなりました。そのような家では何が起ころか。子どもは当然、授業や友だちとの会話を通じて日本語中心の生活です。でも、親御さんは大人になってから日本にきているので、日常生活に必要な日本語の習得は難しい。そのため、家の中で親子の会話が難しくなっているのが今の課題です。」

子どもたちは次第に多感な時期を迎え、学校での悩み、友だちとの人間関係、と様々な問題を抱えるようになってきますが、繊細で込み入った内容を親子間で行うのは至難の業です。しかも、子どもが学校から持ち帰ってくるお知らせのプリントも、難しい言葉や漢字が使われていると親にはなかなか理解できないし、宿題を教えることも難しい。親には辛いことに違いありません。

ん」。なんとも難しい問題です。

今号のテーマである子どもたちの放課後について聞いてみました。

「日本の子と同じように学童保育に行っている子はたくさんいます。ただ、スポ少はあまり聞かれませんね。スポーツに熱心な子はいませんが、スポ少やクラブチームは経済事情や送迎などの負担が彼らにとっては大きいので。」

最近では「KUMONに行っている」という話がよく聞きます。先ほどの話につながりますが、子どもとコミュニケーションをとるため、お母さんも日本語を学びたいと子どもと一緒に習っている家庭もありますよ。なるほど、世界各国にある学習塾がこんなところで一役買っているわけですね。

松井高さん

草津・栗東・守山で「くらしの行政相談所」相談員としてポルトガル語通訳を行う。その他、教育相談員や日本語指導員として南米の子どもたちへの日本語指導や保護者と学校とのコミュニケーション支援を行う。草津市国際交流協会（KIFA）多文化共生部会の部長も務める。

◀写真：大條紘史
（編集ボランティア）



イメージ

*技能実習制度…海外の人材育成支援の一環として、技術を日本で習得し自国へ持ち帰るための制度

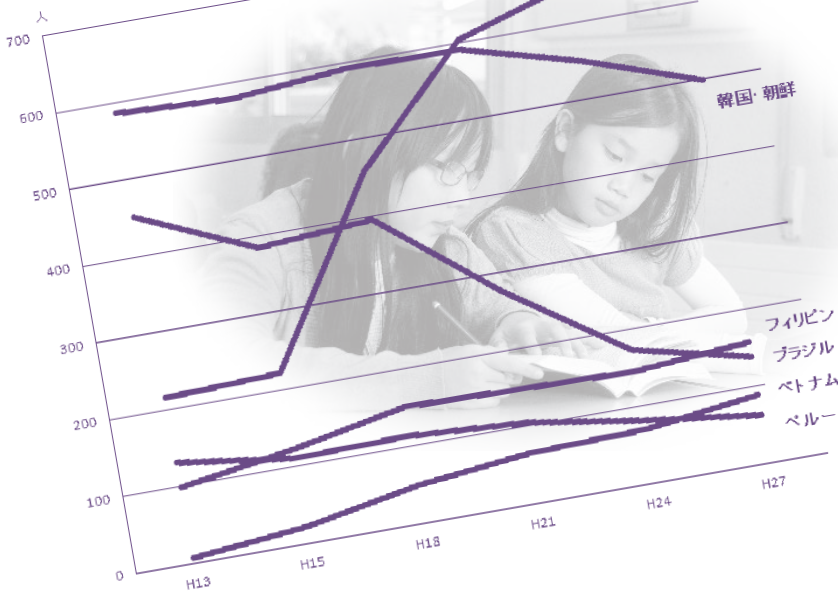
あなたにできること

日本に生まれ、育ちながらも、その日本で一番近くにいた親とコミュニケーションがとりにくい子どもたち。私たちにできることはないのでしょうか。

「声をかけることです。挨拶やちよつとした声かけでもいい。子どもたちにも、お母さんにも。それだけで、自分が暮らす地域社会に温かく見守ってくれる人がいると思える。」

特に子どもたちには、ふれあいと遊びが大切な育みになります。難しい問題を抱えていても子どもは無邪気なものです。楽しかったことは？とて聞くと、『週末に家族で買い物に出かけたんだ』って、そんな些細な日常のことも喜んで話してくれます。声をかけて話をする、聞く。そのことがお互いの文化なり、考え方の違いを理解していく第一歩です。」

草津市の国籍別外国人登録数 (草津市統計書)



写真は、イメージ

FEATURE

写真：大條紘史(編集ボランティア)

さあ、次になにする？

草津市BBS会 大路寺子屋

「さあ、次になにする？」「風船バレー」「じゃ、みんなでイスを片づけて～」風船バレーで盛り上がる小学生と大学生の姿を見ながら「そうそう、遊びってこんなリズムで決まるんだって」って思い出しました。大学生が中心となり、学校とは違う子どもたちの心に寄り添う草津市BBS会。子どもたちにとって、この“ちよつとお兄ちゃん、お姉ちゃん”的な存在が、なんとも良い感じです。

子どもたちから教わる

小学生といっても、みんな、しっかりと自分の意思をもっているなと感じます。最初はおとなしい子どもでも、慣れてくるとしっかりと“自分”を主張してくれます。一見、ワガママに映ることさえありますが、そうじゃないんですよね。いつも騒いで、やんちゃに見える子どもだっ、何気なく友だちに気を遣っていたりする。

見た目や行動だけで人に先入観を持つてはいけません。そんな当たり前のことを目の前の子どもたちから教わっています。だから子どもたちとはしっかりと目を合わせ、きちんと話を聞いてから話しかけることを心がけています。

それと子どもたちって発想が柔軟ですね。ゲームなんかしている時でも、状況に応じてルールを変えようという子ども結構います。

成長に合わせて

小学一年生から中学生までと年齢の幅が大きいんです。子どもの成長って体だけでなく心の変化も大きいから、低・中・高学年で同じ接し方ではいけないと思っています。5・6年生になると、もう対等に話をしてきますし、僕らもそうします。ただ、学年の違う小学生みんなの前で話すときは、どのレベルに合わせて話せばいいのか、難しいですね。

大学生の僕たちだからこそ

スポーツをする。友だちがいる。好きなことに打ち込む。子どもって何かしら自分を充実させるものや場所をもっていると思うけど、そうでない子どもももちろんいます。引きこもってしまった子もいます。そんな子はここで待っているから、まずはここに来てほしい。スポ少や習い事と一緒に、学校以外の居場所のひとつとして、この寺子屋活動があります。ここには違う学年の子や、考え方が違う子も集います。色々な子と話して他人の気持ちがわかるようになってくると嬉しい。そのために大学生の僕たちだからこそ教えたり、与えられることがきっとあるはず。いろいろ話していきたいですね。



藪内亮太さん

説明が上手じゃないから、子どもたちにちゃんと伝わるように気をつけてます。



小寺陽太さん

BBSに誘ってくれた友だちよりも、活動にハマってます。



北直人さん

子どもが好きで入会したけど、運営は楽しいばかりじゃないですね。



院南裕紀さん

子どもたちと話すと、そのころの自分を思い出します。

草津市BBS会 遊びやレクリエーション・学習支援などを通じて子どもたちと信頼関係を築き、悩みや相談ごとに寄り添う寺子屋活動。BBSとは“Big Brothers and Sisters movement”の略で活動の中心は大学生。市内5か所で寺子屋活動を実施中。

くさつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～

かれこれ40年の「ふれあいタウン」。

どこにでもあるようなこの町で、今日も繰り広げられる今ドキご近所のちょっこなれた毎日。

楽しくも少し考えてしまう。もしかして…これって、みんなの問題かも。



さく・com-com / え・まんじゅう

どっちがどっち

まちには色々な人が暮らしています。当然のように色々な問題が生まれます。多くの住民に関わるもの、些細なことのように見えてもその人たちにとっては深刻なもの…。実はこれらの問題がそこに独立して存在しているのではなく、大なり小なりいくつかの問題や要因が絡み合っていることが少なくありません。裏を返せば、一つの課題解決への取り組みが他の課題に対して思わぬ効果をもたせることがあります。

このお話をもう一度みてみましょう。子どもたちの居場所・見守りに一肌脱ごうとした町会長。子どもの宿題に四苦八苦ですが、もしかしたら良い脳トレになって高齢者の認知症予防に一役買うかもしれません。そこまでいかなくても、まちの高齢者のやりがいや楽しみにつながるかもしれません。たとえば、犬を飼っている人が多いまちなら、犬の散歩の時間とコースを少し変えてもらうと、子どもたちの登下校の見守りにつながるかもしれない。子どもたちやまちの人の手前、フンの始末のマナーも一緒によくなるかもしれません。

そう、この「かもしれない…」が大切なところなんですね。

繰り返しになりますが、まちには色々な問題があって当たり前。その度に、対処療法をしていると、みんな疲れてしまいます。その問題の要因や背景を細かく見るだけでなく、少し大所高所に立って見てみることも大切です。「無」から何かを創り出すのは大変ですが、すでにそこにあるものに工夫を加えたり、少し変えたりすることで思わぬ効果をもたらしてくれることもあります。学校で学んだ「(-)×(-)=(+)」ってことも、まちではあるようです。

なあに、ダメだったらまた別のことを考えればいいんです。楽しくやってみましょう、なにせ自分たちのまちなんだから。

これってやっぱり、みんなの問題。



子ども

「子ども」についてのつぶやき・エピソードを集めてみました。

- 小学校の授業で昔の暮らしを話している。昔は「日の丸弁当」を持って通っていた。話をきっかけに5年生は米づくりや、地域の女性に教えてもらい梅干しづくりを体験している。
- 一部の地域住民だけで大切に祭りを守り伝えているところもあれば、小学校の授業で子どもたちに祭りの踊りを教えているところもあるようだ。
- 地域の運動会や祭りに子どもが集まらない。どうやら子どもが習い事に忙しく参加できないということらしい。地域や社会で子どもを育てる風潮をつくること自体が難しい時代。
- わがまちの運動会は役員が努力して子どもたちを集めている。高齢者向けの種目や子どもと一緒にできる競技をあえて盛り込んでいる。昔は仮装行列や各町内の応援旗まであった。
- 部活や塾で子どもの運動会の参加が少なくなり、パンくい競争や子どもリレーをやめようという声もある。
- 空調の整ったところに生まれ、冷房に頼りきった生活環境で育った最近の子のなかには、汗をかきにくい子どもがいると聞いたことがある。

みんなとめんめん
まぢづくりセンター

和・輪・What

このコーナーは、まぢづくりセンターの登録団体でつくる「運営協議会」が担当します。運営協議会は、それぞれ自身の活動から少し離れて「みんなの場所」としての、センターの役割やまちのことを考えながら、みんなで一歩ずつ成長する場所です。

つどいの場は絆の場
まぢセンに入つてすぐの「ふらっとサロン」。誰でも自由にくつろげる開放的なスペースです。おしゃべりや待ち合わせ、ちよつとした休憩など集いや憩いの場としてのほか、時には楽しいイベントの会場にもなります。今回は子どもがお父さんやおじいちゃんに参加できるイベント「おとうさんといっしょ！ハッピータイム」から、家族との絆を深める場づくりについてお伝えします。



▲ふらっとサロン



お父さんといっしょ！

「お父さん、おじいちゃんがもつと子育てに参加できるきっかけを…」とまちセン登録団体の草津モラロジ事務所とまちセンが協力して開催したイベントです。とあるお父さんは「はじめは妻に勧められての参加だったし、慣れない経験ばかりでタジタジでした…。でもふれあい遊びで子どもが喜んでいる姿を見て自分も嬉しかった。もつと違う遊びも知りたい」。より深く子どもと

関わりたい思いが強くなったようです。「プログラムの中で習った手遊びや絵本を、帰ってからお母さんや兄弟と一緒に楽しんでいます。」との後日談も。
家でも家族で楽しくコミュニケーションをとるきっかけにもなりました。

つながりは世代を超えて

親から子へ、そして孫へ。連なる命のリレーは培った人生経験、大切にしてきた思いや考え方がいった生き様も受け継がれていくもの。それは家族の大事な絆の一つであることを伝えるのもモラロジ事務所の活動です。

イベントでは団体の思いをそこまで深く掘り下げていくわけではありませんが、ふれあい遊びを通じて家族のつながりが深まり、将来、大人としてのふるまいを祖父母・両親から学んでいく関係を今から築いてもらえれば嬉しいですね。

草津ダンス道場

「体を動かす全てがダンス」と代表の鈴村さんは語ります。`足を上げる、動作一つとっても、老若男女・ハンディがある人ない人、みんな違う動きが「表現」になります。活動の参加者は「〇(丸)をイメージした動き」といったテーマや、音楽のイメージに合わせてたりして自分の感性が生み



出す動きをダンスにします。鈴村さんが活動を始めたきっかけは聴覚障がい者と一緒にダンスするワークショップ。障がいの有無を越え、初めて会う人とも目が合い共に踊るだけで心が通じ仲良くなれるダンス、の持つ力に衝撃を受けたからだとか。「コミュニケーションは言葉だけじゃない」と教えてくれる団体です。

みんなとめんめん 通算51号

お問い合わせ先 ● まぢづくりセンター ☎ 562-9240 ☎ 562-9340

✉ machi@kusatsu.or.jp

スマイ印刷は、自然環境を守る地球に優しい製品づくり「エコ印刷」に取り組んでいます。

SUMAI

株式会社スマイ印刷 sumaiprint.com

本社:520-3014 滋賀県栗東市川辺568-2 p:077-552-1045 f:077-552-0890
東京オフィス:103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階 p:03-5201-3525
甲賀水口ファクトリーPF1:528-0068 滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘36-6 p:0748-63-1045

読売新聞

街の安心、安全、教育、環境を応援していきます。

草津五店会 TEL 077-568-2146



より道 こ道



「いつもの道、から
一歩それてみる。
大人にこそ寄り道の
時間が必要だ。」

第6回 ● 志那街道

蓮と琵琶湖の恵

石田はま子

烏丸の群生ハスが姿を消した夏、かつての蓮の名所、志那港の界隈を訪ねました。

ここ、志那は浜辺にある地藏堂が「蓮海寺」と呼ばれたかつての蓮の名所。江戸時代の人々が蓮を愛でた風景が屏風にも描かれ、家康も訪れたという記録もあります。蓮海寺の横には常夜灯と、志那出身で俳諧

の祖とされる山崎宗鑑の句碑「元朝の見るものにせん 不二の山」があります。堂前の池に咲き誇る睡蓮が涼を運んでくれます。

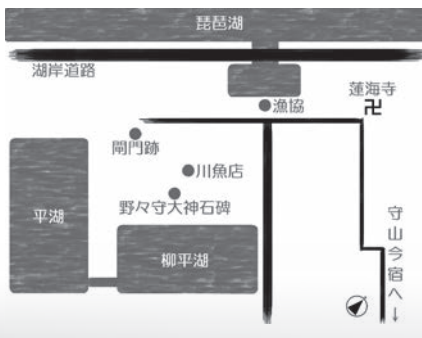
ここは今宿(守山)へと続く志那街道の起点でもあり、中世の戦国期にかけて多くの武将がこの約7kmの道を駆け抜けました。対岸を望むと比良

比叡の山並みが望め、「草津八大名所」に数えられた当時の景観をしのぶことができます。近くには漁業組合や川魚店、琵琶湖の恵みがここにありました。

田んぼの中の木が茂る一角は御座舟を焼却した跡地です。寛永11年(1634)の三

代將軍家光の上洛に際し新造された御座舟「弁財丸」は、この志那浜で保管されていました。しかし家光以降の上洛はなく、約60年後に老朽化した御座舟が焼却されました。跡には「野々守大神」の石碑が残ります。ここが御座舟専用の船着場だったようです。

近くの水路には閘門跡の説明板があります。閘門とは高低差の大きい水面間で舟を昇降させる装置です。内湖(柳平湖)と水位が低い琵琶湖との舟の往来に利用されました。志那の人たちは、魚貝や藻を取るためにこの水路を通り琵琶湖へと舟出しました。志那は長閑で昔の風情が残っています。何ひとつ遮るものもない空にはトンビが輪を描き、ナツアカネの群れが飛んでいました。



ひとりで悩まないで！まずはお電話を！
くらしサポートセンターしが草津がお手伝いします

くらしサポートセンターしが草津
くらし何でも相談
TEL:077-564-5512
 住所：草津市大路1丁目1-1 TEL:932-4F406

センターへの相談は無料です。

- くらしサポートセンターしが TEL:077-522-4600
- くらしサポートセンターしが大津 TEL:077-572-7720
- くらしサポートセンターしが彦根 TEL:0749-27-3500
- くらしサポートセンターしが近江八幡 TEL:0748-37-5522

52 株式会社 **三井田商事**

JR南草津駅前に移転しまして6年目を迎えました。
 弊社は京都府下及び滋賀県下でOA機器を販売し、自社でメンテナンスをしております。又、企業一般の方への水の宅配事業も展開しております。弊社も地域と共に発展したいと考え、土曜出勤日には駅前及び会社周辺の清掃活動を実施しております。今後も地域に貢献し、共に成長していけるよう日々努力して参りたいと考えております。

滋賀営業所 / 〒525-0050 滋賀県草津市南草津1丁目1-5
 TEL:077-598-1611 FAX:077-598-1651

そのまちに… いくと ICT



ICTがやってきた。

ずいぶん身近に、わかりやすくなったICT(情報通信技術)。今こそ、あなたのまちのコミュニティに活かすチャンスです。そんな事例を毎回ご紹介します。

アプリ
ごみなし
草津版 5374アプリ

「あれっ、プラスチックごみの回収って、今週やったっけ、来週やったっけ?」こんな経験ありますよね。人は忘れる生き物。暮らしに身近なことで忘れるときは忘れてしまう。こんな「あれっ」の声に応えてできたのが草津版「5374アプリ」です。自分が住む地域を登録するだけで、「今日・明日・3日後」と次にいつ、どのゴミの収集があるのかをスマホで表示してくれます。ICT技術で暮らしをより豊かにすることを目指す市民団体Code for Kusatsuが市の公開データを活用し作成しました。

ICT×行政データで実現した市民の「あったらいいな」。まちの明日をカタチにするICT、ますます楽しみです。



投票
待ってるよ~!

ゆるキャラ グランプリ 2016

草津市コミュニティ事業団のマスコットキャラクター「まち活マッチ」がゆるキャラグランプリ2016にエントリーしています。

投票期間 ~10月24日(月)まで

ゆるキャラグランプリ

<http://www.yurugp.jp/>

携帯電話、パソコン、タブレットから「ゆるキャラグランプリ」のホームページにアクセスいただき、投票をお願いします! 投票は毎日1回できます。



ご当地キャラ博 in 彦根 2016に参加します!

全国のご当地キャラが一堂に会するご当地キャラたちの祭典「ご当地キャラ博in彦根」に、「まち活マッチ」が初参加します。数多くのゆるキャラが集う彦根に、ぜひ会いに来てください!

参加日時 10月15日(土) 9:00~15:00

会場 彦根市中心市街地

(夢京橋キャスルロード、四番町スクエア、他周辺)

主催 ご当地キャラ博in彦根 実行委員会

ロクハ 感謝祭

公園にGO! ロクハ感謝祭

日ごろの感謝の気持ちを込め、子どもから大人まで世代を超えて楽しめる「ロクハ感謝祭」を開催します。花とみどりあふれるまちづくりを皆さんと進める「草津市緑化フェア」も同時開催。ぜひ皆さんでお越しください。



10月22日(土) 10:00~15:00

雨天の場合は翌日

**ロクハ公園多目的広場周辺および
野外ステージ**

入場料 無料

内容
(予定)

- ・ふれあい動物園
- ・フリーマーケット
- ・子ども乗り物(ミニ新幹線)]
- ・ライブパフォーマンス
- ・模擬店 特産品・野菜などの販売 ほか

問合せ

ロクハ公園(草津市公園事務所)

草津市追分7丁目11番2号

☎564-3838 ☎564-4152

詳しくは
<http://park-698.net/>



草津

読書の秋です。あなたのまちにもやってくる移動図書館車「わかさ号」。2週間ごとに、各ステーションを巡回してくれ大助かり。あれっ、あきらかにおかしなところが3つあります。わかるかな。



イラスト：大村恵（編集ボランティア）

応募方法

ハガキに①答え②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③今号の感想を添えて下記まで。FAX、メールでのご応募もお待ちしています。

※切 **9月30日(金)** 当日消印有効

宛先 〒525-0037 草津市西大路町9番6号
 (公財)草津市コミュニティ事業団「コミュニティくさつ9月号」係
 ☐ com-com@mx.biwa.ne.jp ☎562-9340

プレゼント

正解者の中から抽選で道の駅草津レストラン「ベジカフェ」「ベジショップ」の共通利用券(1,000円分相当)を5名様にプレゼント。

前回の
答え

草津メロン

たくさんのご応募ありがとうございました。

※ご応募いただいた内容は、プレゼントの発送および今後の誌面づくりに活用し、それ以外の目的で個人情報を使用することはありません。

Next きみたちの草津

次代の草津を担う若い人たちの眼に、ここ“草津”はどのように映っているのでしょうか。見えてくる明日の草津があります。



びわこてらこや

西原吾郎さん 愛媛県松山市出身

立命館大学生、教員志望です。今のうちから子どもと関わり自分の足りない部分を成長させたいと思い、「びわこてらこや」に入りました。大学が決まり、松山から草津に来たときの印象は「大学のまち」だったけど、住んでみると実際は大学生があまり地域に関わっていないことに気づきました。地域活動を担っているのは大人、参加しているのも小学生や大人。そこに大学生の姿が見えないのは寂しいですね、大学のまちなのに。

びわこてらこやでは、今、代表をしています。企画する側となり、スケジュール管理や色々な折衝で大変。ずいぶん子どもと触れ合う時間も減りました。でもその分、大人の人と関わるが増え、自分にはないものを学んでいます。たとえば、物事を色々な方向から見て解決策を考えることの重要性も大人との関わりで学びました。

草津の好きなのは、やっぱり暮らすのに便利なお店かな。大学のある草津は第二の故郷。できれば滋賀で先生になりたいです。



ポイント

施設を利用するみんなの声と笑顔をお届けします。

お弁当を持って、でかけよう

ロクハ荘

なごみの郷

クレアホール

まちセン

ロクハ公園

アマカホール

熊谷栄三郎の 徒然草津 つれづれくさつ

第22回
「たり苦しい」
その3

熊谷栄三郎



溪流釣りが好きで、各地でイワナやアマゴを釣ってきた。同時に方言の面白さも楽しんできた。東北地方の食堂にあつた「まぼろすのイワナ定食」という張り紙には笑った。

さて、草津で見つけた「たり苦しい」という言葉。湖南の方言にしては人々への浸透度が浅い。これ、そう遠くない昔、どこからか旅をしてきた言葉ではないか。どこからか。前回述べたように中国地方、とくに鳥取近辺に縁が深い言葉のような気がする。

ネット利用を思いつき、「たり苦しい」と「鳥取県」の二語で検索してみた。なんと鳥取県の知事が地元の記者会見で「予算がたり苦しい」と、何度か普通に言っているではないか。中学の先生の文中にもあつた。

では、それがどうして近江へやつてきたのか。その手掛かりが昨秋、溪流釣りの旅で得られた。氷ノ山の鳥取県側の山の宿に泊まった時のこと。宿の人が「私ら、たり苦しいを使いますよ」と認めた上、雑談に及んで「氷ノ山に

は昔、鳥取の人たちが伊勢参りをする時に越えた伊勢道が残っています」と教えてくれたのだ。直感が働いた。この言葉は江戸時代、そんな伊勢参りの人々と共に近江へ、湖南へと旅してきたのかもしれない。

探つていたら、鳥取博物館に江戸時代の地元民らの伊勢参り道中記を調べた資料があることが分かり、送ってもらった。たとえば弘化二年(八四五)夏。十二人の村人が氷ノ山を越えて但馬へ下ると、京都から東海道へ入り、石部の次は土山宿に泊まっています。

で、思い出したのだ。江戸前期、長崎出島にいたドイツ人・ケンペルの旅行記に「土山宿は伊勢参りの人々が多く、盛んに旅費の不足をねだつてくる」とあるのを鳥取の人だつて、ねだらなくても「旅費がたり苦しい」くらいは言つたらう、と私は思う。
今回言いたいのは、草津は人だけでなく、各地の言葉たちも旅をしてきた町だ、ということ。まだ、証拠がたり苦しい、かな。

読者の声

たくさんのご意見ありがとうございます。

6/15号「種を蒔け」に寄せられた感想から

- 「夢を叶えたドラえもん」を読んで、子どものころ日が暮れるまで稲刈りを作業し、田植えの前にレンゲが一面に咲いていたのを思い出しました。(57才男性)
- とても住みよい町草津はたくさんの人々の手によって成り立っているんだなと実感します。特に若い人や同世代くらいの人々が頑張る姿は勇気が出ます。(27才女性)
- 草津に住み4年。大阪出身の夫は暮らしやすくてとても気に入っており、滋賀生まれの私もうれしいです。「新しい風を」と農業に取り組む方や地元のためにされている方の話はとても励みになります。親子で楽しめる公園がたくさんあるのも滋賀の魅力ですね。(女性)
- 野菜作りに真剣に取り組んでいる人々の話が印象的でした。そんなにまでしていただいていたのか、あおばな館で買う野菜。いつも新鮮でおいしくまた買いに行きたいと思います。これからもがんばって下さい。(42才女性)
- 草津市で活躍しているお米や野菜の生産者さんの話が心に響きました。スーパーでもなるべく地元産を購入するように心がけています。今回の話で安心・安全を改めて実感することができました。(44才女性)

「コミュニティくさつ」は、 みんなでつくる まちづくり情報誌です!

市民編集ボランティア

「コミュニティくさつ」は市民の皆さんと共に作成発行しています。本誌の企画、取材、寄稿、配布などを一緒にしてもらえ市民編集ボランティアを募集しています。写真やイラストが得意な方も大歓迎。

- 編集会議(3か月に1回)で意見を出してくれる人
- 取材同行や寄稿をしてくれる人
- 写真やイラストを提供してくれる人
- 自身の町内会や団体メンバーに本誌を配布してくれる人



●申込み・問合せ●

(公財)草津市コミュニティ事業団
まちづくり振興課内
コミュニティくさつ編集部

広告掲載募集

本誌への広告掲載を希望する団体または企業を募集します。ただし企業の場合は本誌の趣旨を理解した上で、物品やサービスの販売でなく、企業の地域貢献や社会貢献の周知に限ります。

- 1回1枠(名刺サイズ)5,000円
- 【コミュニティくさつ】
- 約59,500部発行(年4回)
- 市内全戸配布のほか、市内公共施設や銀行等に配架

●申込み・問合せ● (公財)草津市コミュニティ事業団 ☎565-0477

「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの経費削減などで得る独自の収益金のほか草津市費、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかっています。

